

<単元の指導計画>

全 4 時間程度 商業科 3 年:会計(選択授業)

授業日時	時間数	学習内容	生徒の活動	学習課程 (使用教材・購入資材)
9 月 7 日(金) 2 時間目 9:50 ～ 10:40	1 時間	お金の重要 性と種類	・会社のキャッシュ・フローを例題 に、お金の重要性を認識する。	・月次損益計算を行う(ワークシート)
9 月 10 日(月) 6 時間目 14:25 ～ 15:15	1 時間	日常的な 金融について	・クレジットをはじめとする様々な 金銭体系を理解する。 ・手形・小切手なども含めた決 済方法を理解する。	・ロンクレABCp12～17 高校生でも持てるカード、持てないカード から、お金を借りる(カード)には、信用が 必要なことを理解する。 ・手形小切手p5～、p21～ 手形小切手の基礎知識を身につけ、実際 の利用方法についても理解を深める。 ・PC/50インチ液晶
9 月 12 日(水) 1 時間目 8:50 ～ 9:40	1 時間	日常的な 金融について	・ローン・クレジットについて理解 する	・ロンクレABCp8～15、p28～31 ・ローン・クレジットのメリット・デメリットを理 解する。 ・返済方法の種類と特徴を理解する。 ・信用の必要性を理解する。 ・PC/50インチ液晶
9 月 14 日(金) 2 時間目 9:50 ～ 10:40	1 時間	さまざま な銀行業務	・「預金」を中心とした銀行の業 務や機能について理解する。 ・投資信託などの「金融商品」に ついて理解する。	・知ろう学ぼうp18.19 ・ライフステージp4.5 銀行 に預金するメリットから、銀行の業務を考 えていく。 ・かんたんレシピp7～ 銀行の基本商品(業務)を理解する。 ・かんたんレシピp23～ ちょっと上をいくレシピから、外貨預金・投 資信託などの商品についても知識を身に つけていく。 ・授業感想まとめ ・PC/50インチ液晶

9月7日(金)9:50～10:40(2時間目)

1時間目 お金の重要性和種類

【目的】会社のキャッシュ・フローを例題に、お金の重要性を認識する。

【評価】(復習も兼ねて)ワークシートの完成度

	授 業 内 容	備 考
導入 5 分	○今回の特別授業の目的を理解する より上級の簿記会計の学習にあたって、これまでの振り返りとともに、簿記会計に関連する金融経済について理解を深める。 ○復習 簿記会計における「財務諸表」とは ・貸借対照表／損益計算書／キャッシュ・フロー計算書	・ワークシート配布 ・PC、50 インチ液晶準備
展開 1 45 分	○簿記会計の不思議 ・月次損益計算書／月次資金計算書の作成 ★利益が出ていても資金が足りなくなること、企業は倒産してしまうことを理解する。→企業は資金が無くならないように「資金繰り」を常に考える必要がある。 ○資金繰りの本質 ・仕入から売上までを求める計算 →商品回転率 ・売上から回収までを求める計算 →受取勘定回転率 ○さまざまなキャッシュ ・簿記会計における「資金」＝「現金」「預金」 ・商品売買業における「支払い手段(方法)」 ＝「現金」「小切手」「手形」「掛け」 次時は、個人レベルでの「キャッシュ」について学ぶことを伝え、終了。	・月次損益計算書と月次資金計算書からの読み取り。

9月10日(月)14:25～15:15(6時間目)

2時間目 日常的な金融について

【目的】個人が使用できるキャッシュ、小切手・手形などの決済方法について理解する。

【評価】ワークシートの完成度

	授 業 内 容	備 考
導入 5分	○1時間目授業内容確認 簿記会計における「資金」、商品売買業における「支払い手段(方法)」の確認	・ワークシート配布 ・PC、50インチ液晶準備
展開1 20分	○個人レベルのキャッシュ 実社会の中で、みなさん「一個人」が持てるもしくは使用できる「キャッシュ」にはどんなものがあるだろうか？ ・誰でも持てるカード プリペイドカード(磁気カード型・ICカード型) デビットカード(機能の呼び名) キャッシュカード ・条件を満たすことで持てるカード ローンカード クレジットカード ★それぞれのカードの特徴を確認 →「条件」＝「信用」については3時間目で詳細を学習 ○豆知識 企業独自のICカード型プリペイドカード	・ロンクレ ABCp17 参照 ・プリペイドカードは、磁気・IC型の違いにより、使用方法が違ふことを知る。 ・デビットカードは、カードではなく、機能の呼び名であることを知る。
展開2 25分	○商品売買業における「支払手段(方法)」 企業間でのお金のやり取りで活用されている「小切手」や「手形」について ①「小切手」と「手形」とは？ ・なぜ、お金の代わりになるのか ・企業間のやり取りでは、なぜ手形・小切手が現金の代わりに利用されるのか(利便性) ②「小切手」と「手形」の特徴 ・「小切手」と「手形」の違い ・利用方法 ・実務上における注意点 ・不渡 →当座貸越契約を結んでいる場合は、銀行から借りて支払い残高がマイナス(－)という状態になることがある。 →『第1号不渡』と『第2号不渡』は、6ヶ月間に2回以上発生すると銀行取引停止になる。	・ライフステージ p11 ・手形・小切手のはなし p5～ ・手形・小切手のはなし p21～ ・実務上における注意点は、教材内の記入例を参考に確認。 ・不渡については、不渡の種類や、取引停止処分制度なども理解できるようにする。

9月12日(水)8:50～9:40(1時間目)

3時間目 日常的な金融について

【目的】ローンとクレジットの仕組み、メリット・デメリットについて理解する。

【評価】ワークシートの完成度

	授 業 内 容	備 考
導入 5分	○2時間目授業内容確認 後で返す約束でお金を借りることができるローンカード、商品を先に受取り後でお金を払うクレジットカードについて確認する。	・ワークシート配布 ・PC、50インチ液晶準備
展開1 40分	○大きな物を買おうと思ったら 毎月75,000円ずつ預金をして、36,000,000円のマンションを購入しようと思います。何年後に購入できるでしょう。 ★必要な時に必要な物を手に入れるための手段としてお金を借りて払うこと。 ①「ローン」と「クレジット」とは？ ②それぞれの特徴 ③ローンの種類 *種類によって金利が異なる ④ローンのメリット・デメリット ⑤クレジットのメリット・デメリット ⑥返済方法について *目先のことにとらわれず、将来を見据え計画的に返済できるようにする ○誰でもお金を借りられる訳ではない お金を借りる場合の「信用」とは、一般的な「信用」とは違う次の4つのCで表わすことができる。 ・Character(人格) ・Capacity(支払い能力) ・Capital(資産)又はCollateral(担保) ・Control(自己管理)	・ロンクレ ABCP8～13 ・ロンクレ ABCp29～31 ・ライフステージ p17 ・返済方法によって、返済総額が変わることを理解する。 ・ロンクレ ABCp18.19 ・お金を借りる人の信用＝4つのCについて理解する。
まとめ 5分	○現代社会はカード社会であること。 現金以外の多様な支払い方法について、メリット・デメリットを理解して賢く活用できるように。 →使い方を間違えると多重債務に陥ったりするので、学んだ内容を理解して、生活を豊かにする手段として欲しい。	・ワークシートまとめ

4 時間目 さまざまな銀行業務

「投資信託」など、銀行の商品について知る。

[illegible]

◎より上級の簿記会計の学習にあたって、これまでの振り返りとともに、簿記会計に関連する金融経済についての理解をする。

- 『 復習 』
- ・簿記会計における「財務諸表」とは・・・？
(貸借対照表) ・ (損益計算書)

↓ ※上場企業においては、2000 年 3 月期から変更

(貸借対照表) ・ (損益計算書) ・ (キャッシュ・フロー計算書)

○なぜ、(キャッシュ・フロー計算書) が必要になったのか？

< 簿記会計の不思議 >

資本金¥3,000,000 万円を元入して、会社を設立した。最初の 1 ヶ月の経営活動は、下記の通りであった。4/29 現在、月末の月次損益計算をおこなうと、経営成績はどうなる予定か。

4 /	1 ~ 2 5	商品の現金仕入高	@¥15,000	120 個
	4 ~ 2 9	商品の掛売上高 (回収翌月)	@¥28,000	80 個
	1 ~ 2 9	販売経費 (現金支払い)	¥280,000	
	4	パソコン等備品購入 (現金支払い)	¥350,000	
	2 5	ショップの家賃 (現金支払い)	¥220,000	

4 /	3 0	給料 (2 人分 ・ 現金支払い 予定)	¥400,000	
-----	-----	------------------------	----------	--

【月次損益計算書】 (予定)

項 目	内訳 (明細)	金 額
I. 売上高	@¥28,000×80	¥ 2,240,000
II. 売上原価		1,200,000
・ 月初商品	0	
・ 当期仕入高	1,800,000	
・ 月末商品	600,000	
III. 売上総利益 (粗利益)		1,040,000
IV. 販売費および一般管理費		900,000
・ 販売経費	280,000	
・ 支払家賃	220,000	
・ 給料手当	400,000	
V. 営業利益		140,000

【月次資金計算書】 (予定)

I. 月初の資金残高	¥ 3,000,000
II. 資金の減少	
・ 商品の現金仕入高	1,800,000
・ 販売経費	280,000
・ パソコン等備品購入	350,000
・ 家賃の支払い	220,000
4 / 2 9 現在の残高	350,000
・ 給料 (2人分 支払予定)	400,000
月末 現金残高 (予定)	△ 50,000

以上のように損益計算では¥ (140,000) の (利益) を計上しているが、資金計算書では資金が足りない計算になります。

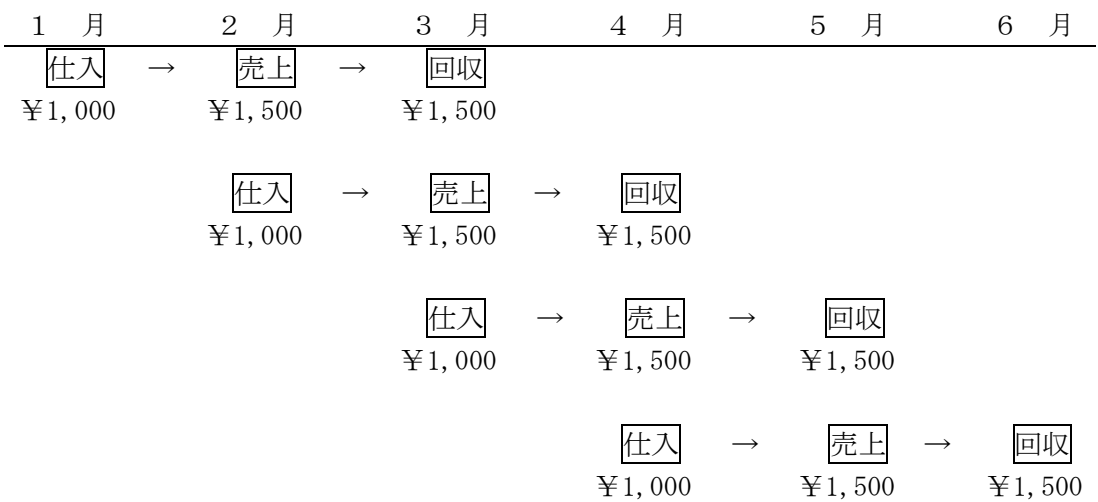
このように、利益が出ていても (資金) が足りなくなることで、企業は倒産してしまうことになります。
よって、企業は資金が無くならないように「資金繰り」を常に考えている。

< 互知識① >

このように計算は合っても、お金が足りなくなることから、「理論と実際は異なる」という意味の『ことわざ』は？

(勘定) 合って、 (銭) 足らず

『資金繰り』の本質



・販売および回収についてのスパン（期間）は業種ごとで異なるが、各企業の日数を計算し、それを経営計画に役立てる。

①販売までの期間（仕入から売上まで）を求める計算式

(商品) 回転率 =
$$\frac{(売上原価)}{(期首商品 + 期末商品 \div 2)}$$

②回収までの期間（売上から回収まで）を求める計算式

(受取勘定) 回転率 =
$$\frac{(売 上)}{(受取手形 + 売掛金)}$$

<資料> ※商品以外は、年度末もしくは1年分の金額とする。

売 上 高	¥50,000,000	受 取 手 形	¥2,675,000
仕 入 高	37,650,000	売 掛 金	2,325,000
		期 首 商 品	1,425,000
		期 末 商 品	1,575,000

『さまざまなキャッシュ』

○簿記会計における「資金」とは？（ 現金 ）（ 預金 ）

また、商品売買業における「支払手段（方法）」とは？
（ 小切手 ）（ 手形 ）（ 掛け ）

< 個人レベルの「キャッシュ」 >

実社会の中で、みなさん『一個人』が持てるもしくは使用できる「キャッシュ」にはどんなものがあるだろうか？

1. 誰でも持てるカード
- ①（プリペイド）カード・・・「代金を前払いした」という証拠を示すカード。
「（ 磁気 ）カード型」 → （ QUO ）カード
などで、支払分のみしか使用できない。

「（ IC ）カード型」 → （ Suica ）カード
などで、代金を追加して繰り返し使用が可能。
- ②（デビット）カード・・・代金支払時に「預金口座から即時に引き落とされる」カード。
このカードの種類は無く、キャッシュカードに備わっている「機能」の呼び名である。
- ③（キャッシュ）カード・・・銀行の普通預金の出し入れなどに使うカード
最近、他のカードの機能を持つ物もある。
2. 条件を満たすことで持てるカード
- ④（ローン）カード・・・後で返す（返済する）約束でお金を借りる事ができるカード。
事前に契約を結び、その範囲内でATMで出し入れ可能。
- ⑤（クレジット）カード・・・商品を先に受け取り、その代金を後で支払うことができるカード。利用代金は、後日に預金口座から引き落とされる。

< 豆知識② >

いろいろな企業が独自に作っているICカード型のプリペイドカードにはどんなものがあるか？

S u i c a	JR 東日本	SUGOCA	JR 九州
K i t a c a	JR 北海道	P A S M O	加盟各社
T O I C A	JR 東 海	N A N A C O	セブン&I G
I C O C A	JR 西日本	WAON	イオンG

◎企業会計および日常生活における、さまざまな決済方法および、資金繰りについて考えてみる。

『 前回の復習 』

○簿記会計における「資金」とは？ （ 現金 ） （ 預金 ）

また、商品売買業における「支払手段（方法）」とは？
（ 小切手 ） （ 手形 ） （ 掛け ）

1. <手形と小切手>

1. 手形・小切手とは？

モノやサービスの売買をすると、売った人に代金を受け取る権利（ 債権 ）が、買った人には代金を支払う義務（ 債務 ）が生じる。
代金の受払いをして、この債権と債務を消滅させることを（ 決済 ）といい、銀行では「振込」や「手形」・「小切手」などを使った資金決済を行っている。

○なぜ？ 手形や小切手を利用するのか？ （「ライフステージで学ぶ銀行」P.11）
→ 「いろいろな危険性があるため！」
（例題）

手順	作業内容	心配なこと
1	銀行から現金を持ち帰る	強盗・紛失
2	紙幣を数える	数え間違い
3	A社で現金を保管する	盗難・紛失・焼失
4	現金をB社へ運ぶ	盗難・紛失
5	B社が受け取る	数え間違い

2. 手形・小切手の特徴

- ①どちらも、モノ自体は単なる紙切れであるが、額面に記載された金額の価値を持っており、一定の金額の支払いを目的とした（ 証券 ）である。
- ②手形・小切手は（ 記載 ）されていることが絶対である。

③手形と小切手の大きな違いとして、
小切手は「当座預金の（ 残高 ）を元に振り出せる」のに対して、

手 形は「当座預金の（ 残高 ）に関係なく振り出せる」

④手形・小切手を現金化するためには、支払銀行に見せることが必要。
「支払のための（ 呈示 ）」という。

⑤支払銀行に支払人の当座預金残高が1円でも不足していると、支払はされない。
このような手形・小切手は（ 不渡 ）になったと言われる。

ただし、（ 当座借越 ）契約を結んでいる場合は、銀行から借りて支払い、残高が「－（マイナス）」という状態になることがあります。

「不渡」には大きく3種類のケースがある。

『第1号不渡』・・・残高不足

『第2号不渡』・・・相手に支払う意思がない場合

『第0号不渡』・・・手形の不備

上記のうち、『第1号不渡』と『第2号不渡』を（ 6 ）か月間に（ 2 ）回以上発生すると銀行取引停止処分となる。
↓
実質的な（ 倒産 ）となる。

< 豆知識 >

一般的に落とし物をしたさいには、拾った物件の（ 5 ）%～（ 20 ）%相当のお礼をすることになる。（遺失物法）

落とし物を拾った場合、落とし主が現れない場合は、拾得者の物になる。
従来は届出をしてから（ 6 ）か月であったが、平成18年からは（ 3 ）か月となった。

また、価値の低い（ 消耗品 ）の類については、2週間保管をすれば、拾得者が（ 売却 ）をすることも可能となった。

II. <ローンとクレジット>

1. ローン・クレジットとは？

モノやサービスの提供を受ける（購入する）ときに、お金が貯まるのを待っていては、とても時間がかかります。そのため、必要な時に必要な物を手に入れるための手段として、お金を（ **借りて** ）、支払うことです。

Q 1. 毎月¥75,000 ずつ預金するとします。 ¥36,000,000 のマンションを購入するのは、何年後になるか。ただし、金利は考えない物とする。

2. それぞれの特徴

ローン（l o a n）・・・「お金を貸す」という意味で使われる。
→（ **銀行** ）からお金を借りて、後で返済する。
借りるさいに、事前取引の契約が必要になる。
返済する金額には（ **利息** ）が生じる。

クレジット（Credit）・・・「信用」の意味で使われる。
→（**クレジット**）会社が立替払いをし、後で返済する。
契約を結んでおけば、必要なときに支払いが可能。

3. ローンの種類

- ・ローンで購入または購入する代表的なモノ
①（ **車** ） ②（ **住宅** ） ③（ **教育** ）
- ・金利と頭金
支払金額に対して、契約段階でいくらかの支払いをすること・・・（ **頭金** ）

『 頭金は何故支払うのか？ 』
①購入者の権利を守るため。
②利息額を減らすため。

4. クレジットのメリット・デメリット

- メリット・・・①（ **後** ）払いにすることができる。
②通販などでの（ **支払い** ）が簡単。
③（ **現金** ）をたくさん持ち歩かなくてもよい。
④（ **分割** ）払いにすることができる。

- デメリット・・・①使いすぎる心配
②カードを悪用される危険
③分割払い時に金利がかかる

5. 返済方法

返済方法によって、返済総額が違ってくるので注意！

『ローンの場合』

- 一括返済もあるが、基本的には（ **分割** ）払いとなり、手数料や利息がかかる。
①（ **元金均等** ）返済・・・元金を毎月均等に返済するとともに、利息を支払う方法
毎月、支払金額が（ **減少** ）していく。

②（ **元利均等** ）返済・・・毎月の返済額を均等にする方法である。

『クレジットの場合』

- 金額によって、1 回から数十回まで回数を決めて支払う。
（ **3** ）回以上の分割になると利息が発生する。
①（ **一括** ）返済・・・翌支払日もしくはボーナス時に一括して支払う。

② 元利均等 返済・・・クレジットの分割は基本的には元利均等となる。

③（**リボルビング**）返済・・・通称「リボ払い」と呼び、毎月の支払額を一定額に、途中で、使用や借入の追加があっても、毎月の返済額は変わらない。
※返済計画は立てやすいが、返済総額は大きくなる。

6. 「信用」とは？

お金を借りる場合の「信用」とは、具体的に『4つのC』によって創られる。

- ① C h a r a c t e r・・・（ **人格** ）
② C a p a c i t y ・・・（ **支払能力** ）
③ C a p i t a l ・・・（ **資産** ）
 ※（C o l l a t e r a l・・・担保）
④ C o n t r o l ・・・（ **自己管理** ）

◎企業会計および日常生活における、さまざまな決済方法および、資金繰りについて考えてみる。

『 前回の復習 』

- ① 小切手は「当座預金の（ 残高 ）を元に振り出せる」のに対して、手 形は「当座預金の（ 残高 ）に関係なく振り出せる」
- ② 手形・小切手を現金化するためには、支払銀行に見せることが必要。「支払のための（ 呈示 ）」という。
- ③ 支払銀行に支払人の当座預金残高が 1 円でも不足していると、支払いはされない。このような手形・小切手は（ 不渡 ）になったと言われる。

I. <銀行>

1. 銀行とはどんなところ？

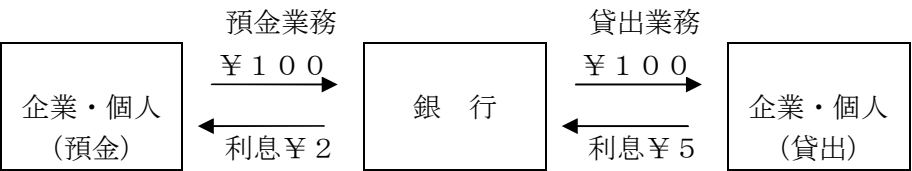
- ① 金銭を自宅で保管することは危険性が及ぶため、安全のために預かるところ。
- ② 必要な人へ資金を融通（貸出）するところ。

2. 銀行の 3 大業務

- ①（ 預金 ）業務・・・お金を不特定多数の人（企業）から預かること。
- ②（ 貸出 ）業務・・・お金が必要な人（企業）に貸し出すこと。
- ③（ 為替 ）業務・・・離れた人（企業）同士が銀行を介して、やりとりをすること。

3. 銀行の経営

○銀行はどうやって利益を得るのか？



利息の差額分が（ 利益 ）となる。

また、上記のような仲介役を務めることを（ 間接 ）金融と呼んでいる。

4. 預金の種類

銀行にお金を預けるさいにはさまざまな形式の契約がある。それぞれに特徴があるため、利用しやすい、または得をできる預け方はどんな方法か？

◎預金に対する 3 つの性格

- i.（ 安全 ）性・・・預けたお金の保証の度合い。 元本保証や預金保険制度など
- ii.（ 収益 ）性・・・高い収益を期待できる度合い。 利息が大きい（小さい）かなど
- iii.（ 流動 ）性・・・換金のしやすさの度合い。 いつでも無料で使えるかなど。

<預金形態（金融商品）>

- ①（ 普通 ）預金・・・いつでも自由に預入、引出が可能。お財布代わりに利用できる。安全性・流動性は高く、収益性は低い。元本保証は(1,000) 万円
- ②（ 定期 ）預金・・・原則として、決められた満期日まで引き出すことができないが、普通預金よりも高い金利が適用される。安全性は高い。 流動性は低い。

「簿記会計」における預金

- ③（ 当座 ）預金・・・小切手や手形の決済に利用するの目的の預金。利息が発生しない。
- ④（ 通知 ）預金・・・短期間に運用するさいに利用する預金。原則、7 日間は預けておくことが必要で、2 日前に通知する。普通預金より若干利息が高いが、途中解約すると普通預金と同じ率になる。
- ⑤（ 別段 ）預金・・・株式の募集をかける時などに用いられ、一時的に銀行に「保管」してもらう預金。特別な契約が無い場合は利息が付かない。

< 豆知識 >

一般的に落とし物をしたさいには、拾った物件の（ 5 ）%～（ 20 ）%相当のお礼をすることになる。（遺失物法）

また、（ 安価 ）で（ 大量販売 ）の類については、2 週間保管をすれば、拾得者が（ 売却 ）をすることも可能となった。

5. 銀行の種類

銀行にはそれぞれの役割や目的があり、取引相手も異なる。

1. (中央) 銀行・・・別名、(銀行) の銀行と呼ばれる。

諸銀行に対して、資金を融通するなど、中核を担っている。

また、唯一 (銀行券) の発行もできる。

2. (市中) 銀行・・・1に対して、民間の銀行のこと。 いわゆる「銀行」である。

① (都市) 銀行・・・大都市に本店があり、主に、大企業との取引を中心に、さまざまなサービスを提供している。

② (地方) 銀行・・・地方都市を中心にして、地域密着型のサービスを提供しているが、地元の比較的規模が大きい企業との取引が主である。

③ (信用) 金庫・・・地元の中小企業、勤労者のために預金の受け入れや融資などのサービスを提供している。
貸付は、(会員) のみに限定されている。

④ (信用協同) 組合・・・地元の小企業者、零細企業、勤労者のために預金の受入や融資などのサービスを提供している。
信用金庫よりも小規模である。
貸付は、(会員) のみに限定されている。

3. (ネットバンク)・・・インターネットのみで利用可能。

店舗無し・通帳無しと設備投資がいらないため、

費用削減となり、通常の銀行利息より高めに設定される。

② (金融債)・・・銀行などの金融機関がお金を借りるために発行する借用証書。

③ (金銭) 信託・・・自分の財産の管理や運用を他の人に任せることを「信託」といい、銀行への預金をベースにしたもの。
(契約によっては、元本を保証している)

④ (投資) 信託・・・③と同じく、運用を人に任せることであるが、異なるのは「商品を買う」という状況になり、責任は投資家個人にある。
※よって、損失が出ても元本は保証されない。

6. 銀行のその他の役割

銀行には3大業務の他、「金融経済」の中心としてさまざまな業務・役割を果たしている。

『金融商品』

銀行で取り扱う契約を「(金融商品)」と呼び、お金に係る色々な契約を設定している。

預金についても、分類としては一種の『商品』ではある。

① (債券)・・・お金を借りるために発行する借用証書のことを (債券) といい、国が発行する (国債)、企業が発行する (社債) がある。